

# 読者から読者へ

——書物のもうひとつの役割とグラスゴー大学所蔵  
ファースト・フォリオの書き込み——

住 本 規 子

## 【概要】

書物を「作者から読者への伝達装置 transmitter」という自明の概念で捉えることとは別に、「読者から読者への伝達装置」という新しい概念で捉えることを Emma Smith は提唱している。本論は、Smith の新概念をシェイクスピア研究、とりわけ、書誌学、受容史の分野の先行研究と照らして検証し、この概念をよりどころにして、グラスゴー・コピーという特定のファースト・フォリオの *The Tempest* に残された書き込みを転写により共有するものである。

## 本論の目的

本論はシェイクスピア・フォリオという影響の大きな書物の存在意義についての、あたらしい考え方について論じることと、その精神にのっとなってグラスゴー大学所蔵のファースト・フォリオの書き込みから未公開の詳細を共有することを目的とする。

## 書物のもうひとつの役割

グラスゴー大学図書館や明星大学図書館が、所蔵のファースト・フォリオをデジタル化して公開するウェブサイトを立て上げてから 10 年余りがすぎた今、ようやく特定のフォリオのページ画像をオンラインで公開する図書館がいくつか出てきた。そのひとつ、2012 年に、スタートしたオックスフォード大学ボドリアン図書館のフォリオのウェブサイト *Sprint for Shakespeare* のブログに、“How many First Folios do we need?” と題する文章を載せた Emma Smith は、その結論で、次のように述べている。

So, how many First Folios do we need? As many as possible, because we've only just begun to give this most influential of books this kind of copy-specific attention, and to think about printed books from this period as unique transmitters – not so much from author to reader, but from reader to reader, through the centuries. (Smith)

‘this kind of copy-specific attention’ は、ここでは広く募金活動がされて実現したボドリアン図書館所蔵のファースト・フォリオ (Arch. Ge.7) のデジタル化による全ページ公開をふまえている。

Smith のこのブログ記事は、ロンドン大学のセネット・ハウス図書館が、ファーストからフォースまでのシェイクスピア・フォリオ本1セットを、「基本的に複本」という認識のもと、売却の是非を検討する話が持ち上がり議論となったことへの反応が契機となって書かれたものだ。タイトルも、複数冊は不要であろう、という「基本的に複本」という認識に対する反論からきている。今日みすみす地上から絶滅させてしまう植物に未来の人類を救うどのような薬効があるか、われわれはまだ知らないのだ、と訴えた30年前のWWFの意見広告を連想させるかのように、フォリオの「この一冊」には今までの研究では解明されていない未知の存在意義があるかもしれないのではないか。そのことに今われわれは気づき始めたばかりなのだ、だから、フォリオはできるだけたくさん必要なのだ、と Smith は指摘しているのだ。

Smith の指摘にもう少し説明を加えておこう。書物はこれまで作者の思いを読者に伝える伝達装置だと考えられてきた。一冊一冊の本（英語ではこれをコピーと呼ぶ）は、したがって、頁に欠損がなく読者の書き込みもない作られた当時の状態に近いものほど望ましいとされてきた。この考え方のもとでは、フォリオもオリジナルのページが全部そろっていて書き込みを含む「汚染」（読者の書き込みが汚染とみなされ洗浄 washing された過去もある。緩んでしまった製本をやり直す際には、欄外の書き込みは容赦なくカットされることもあった）のない保存状態のよいコピーが一冊あれば充分であり複本は不要、ということになる。もっとも、この点に関してもフォリオは複本不要とはいかない。フォリオのような17世紀の印刷本は、同一エディション

のコピーすべてが同一のテキストをもつ機械印刷時代の印刷本とはまったく事情が異なるからだ。

このことは Smith も記事のなかで指摘していることだが、作者から読者への伝達装置としてのフォリオの使命を最大限に全うさせるためだけでも、すなわち、作者の意図をもっとも正確に読者に伝達する本文を確定するためだけでも、ストップ・プレス・コレクション（刷り作業を中断しての修正）という当時独特の印刷所慣習が原因で生じるテキストの不安定要因を最小限にする目的で、現存コピーの全てを徹底調査する必要があるのである。このことは書誌学、とりわけ、本文批評家の間では今や常識であって、世界で数冊からせいぜい数十冊の域に留まる数しか現存しないクオート本を底本とする作品編纂作業では、当該コピーの全冊全ページを校合、検証する作業が定番の手続きだ。この点でも 232 冊を数えしかも各コピーが 907 頁に及ぶ大部な書物であるフォリオは、そのすべてが校合され、検証しつくされたとは到底言えない。だから、フォリオはできるだけたくさんのコピーが必要なのだ。このことを漠然とではあったにしろいち早く認識していたと推測されるヘンリーとエミリーのフォルジャー夫妻によって 19 世紀末から 20 世紀前半にかけて蒐集され、フォルジャー図書館に 82 冊（と、現在では数えられている）集められていたことが、Charlton Hinman によるフォリオ研究（実際に全ページが校合研究されたのは 56 冊（Werstine 15））を可能にし、ストップ・プレス・コレクションなどフォリオの印刷事情を明らかにしてきたのである。ストップ・プレス・コレクションによるヴァリエーションについて、Rasmussen and West 編纂の *The Shakespeare First Folios: A Descriptive Catalogue* (2012) が、世界にひろがる各コピー所在地での実地調査の末に、これまで見つかったこなかったものも含めて 338 個確認した (xviii) としているが、残念ながら、完全無謬の調査とは言い難い。

これに対し、フォリオをはじめとする初期近代、すなわち、16 世紀から 17、18 世紀頃までの印刷本が担うもうひとつの伝達装置、読者から読者への伝達装置としての個々のコピーがもつかけがえのない意味に、わたしたちはこれまで気づいてこなかった、この分野は今研究が緒に就いたばかりの未開拓の分野だと、Smith は言うのだ。これには、注目すべき、全くあたらしい概念が含まれているように思われる。

読者による書き込みという、図書館常識では書物に対するマナー違反にあたり、古書マーケットでは取引価格を下げる要因となるいわば厄介者に注目し、そこに資料価値を見だし始めたのは、H. J. Jackson (2001) に遡ることができる。ジャクソンの研究は特にロマン派の文人による書き込みに強みを発揮するものであった。対象をルネサンス時代の書物に残された書き込みに絞り、下線を含むさまざまなマーキングにも注目し豊富な事例を猟補して、書き込み研究を学際的な読者／読書研究の重要な一分野と認知させたのが、W. H. Sherman (2008) である。おなじ 2008 年に Peter Beal は、“Marginalia” を定義して、読者による書き込みは初期読者のテキストへの反応やテキストとの向き合い方を解明する読書史の貴重な資料である、と位置づけた (Beal 247)。2007 年に、シェイクスピアを中心とする戯曲本に特化した書き込み事例から、戯曲テキストの編纂作業が 18 世紀初頭の口を待つのではなく、もっと以前から始まっていたことを指摘した Sonia Massai は、最近出版された *The Oxford Handbook of Shakespeare* に“Early Readers”の一章を寄稿し、読者の書き込みの研究を基礎とする読者研究がシェイクスピア研究の一分野に定着したことを印象づけた。明星大学図書館所蔵のファースト・フォリオ (貴重書番号 MR774) の全書き込みを転写した山田昭廣氏の労作、*The First Folio of Shakespeare: A Transcript of Contemporary Marginalia in a Copy of the Kodama Memorial Library of Meisei University* (1998) は、読者による書き込み研究としても“copy-specific attention”の実践としてもきわめて先駆的な業績であったことがわかる。

こうしてみると、シェイクスピアの古版本をめぐる読者の書き込みに対する研究的注目は、すでに 20 年近い歴史を刻んでいるわけで、「緒に就いたばかり」という Smith の表現はいささか大げさに聞こえかねない。そうだろうか。そもそも上に述べたような書き込み研究は、個々の事例を丹念に記録し注目していくことに始まるが、その目指すところは、読書の歴史あるいは読者論であった。上述のように、Beal が‘marginalia’の定義でも示唆しているほか、Heidi Brayman Hackel (8) など、読者論の研究者に、個々のコピーの書き込みをその多様な姿をありのままうけとめ記述することを重視する考え方は共有されている。シェイクスピア研究でいえば、それは受容史への貢献を目指すものであったとってよい。ところが、ここで Smith が示唆し

ているのは、「読者から読者へ」という伝達装置としての個別コピーへの注目なのである。読者論や読書の歴史を構築するために研究者が行うのではなく、現代の読者が過去の読者から（意図されたかどうかは別として）託されたものを受けとるための注目なのである。

すべての読者が当該コピーの所有者であった読者（あるいは、読者たち）から伝えられるものを直接閲覧して受け取ることは理想であるけれども、フォリオのような400年近い年月にわたって受け継がれてきて、この先もながく未来へと受け継いでいくべき貴重な書物の場合、保存の観点から言っても当該コピーの前に誰もが座ってそれを受け取ることは無理がある。第一シェイクスピアのように現在その読者が世界中に存在する作家にあっては、地理的にいってもすべての読者がそのコピーの所在地に赴いて閲覧することは不可能である。コピーの現在の保存状態が悪い場合はなおさら閲覧に供することが難しくなる。インターネット上における画像公開は、このような保存と公開という、相反するニーズに応えることを可能にする優れたツールであり、明星大学図書館のサイトで公開している *Meisei University Shakespeare Collection Database* も10年以上前からこのことをうたっている。デジタル化は費用を要する事業であるが、保存と公開の両立に、投資に見合う価値をみとめ、実現していくという考え方自体は新しいものとはいえないのである。

*SPRINT* がユニークな募金活動を展開し2013年に公開を実現した Arch. Gc.7 というファースト・フォリオは、コピー図書館としてボドリアン図書館が献本を受け、製本を発注し、配架した出版当時から40年ないし50年ほど図書館にあり、その後200年以上行方不明の時間を経て20世紀初頭に古巣に戻ったコピーだ。ボドリアンに在ったときの盗難防止の鎖で書棚につながれていた跡と、図書館の本らしく書き込みはほとんどされていないが、破れや、特によく読まれた作品のページでは角が摩耗しているなど、かつての学生読者たちの読書行動を今に伝えているのだ。筆者もそのことを確認したくて、閲覧希望を出したが、摩耗著しいため個別の閲覧は今では許可していないということであった。筆者の研究テーマに配慮して特別に、貴重書書庫内で、担当責任者が一部を開いて見せてくれたおかげで、*Romeo and Juliet* のページが他に比べて「ひどくすり減り傷んで」（Rasmussenn、安達訳76）

いることを確認することができたのは2011年のことであった。

*SPRINT*はdigital facsimile onlineとしてのArch.Gc.7の公開にあたり、その目的を“scholars, schoolchildren and Shakespeare-lovers alike, everywhere”の研究や楽しみに供することとうたっている(*SPRINT*)。Smithの新しさは、こうしたウェブ公開を支える考え方の土台に、個々のコピーがもつ読者から読者への「伝達装置」という書物のあたらしい概念を持ち込んだことだ、といえるだろう。特定のコピーが抱える破れや摩耗のすべてに、それをもたらし読者たちの営みがぎざまれており、現代の読者はものとしてのコピーをとおして、かつてかかわったすべての読者たちのメッセージを共有する。読者間でのこうした共有は、読書体験にながしかの影響を与えずにはおかない。それはちょうど、明星大学の学生たちがゼミで各自が見つけてきた「いいね!の台詞」を共有し、互いの作品受容を深め合うのと、原理においては変わらないであろう。

歴史と文化を超えた読者というコミュニティーに着目し、書物をめぐる読者から読者へというコミュニケーションを研究対象に据える、フォリオへの社会的アプローチとでもいうべきこの概念を、Smithは今後の出版で追求する予定であることを、2014年3月に明星大学資料図書館を訪れた際、筆者に語ってくれた。その際、筆者に現地での閲覧調査を勧めてくれたフォリオが、本論でその書き込みの一部を共有しようとしているグラスゴー大学図書館所蔵のファースト・フォリオである。

### グラスゴー・コピー

本論の目的の二つ目は、スミスはこの新しい概念をよりどころとし、グラスゴー大学図書館所蔵のシェイクスピア・ファースト・フォリオ（請求番号Sp Coll BD8-b.1）（以下「グラスゴー・コピー」と称す）に残された読者による書き込みを広く読者と共有することである。ただし、紙幅の関係から本論で共有の対象とする書き込みは*The Tempest*に残された読者の全書き込みに限ることとする。

グラスゴー・コピーについて語るには、グラスゴー大学図書館が2001年7月に公開した「今月の一冊」でのウェブ公開に触れなければならな

い。明星大学では図書館サイトにて、*Meisei University Shakespeare Collection Database (MUSC)* を立ち上げ、所蔵する書き込みのあるフォリオの全ページ画像を公開している。2002年に着手されたこのプロジェクトは当時すでに公開されていた2つのサイトに触発された経緯をもつ。ひとつは、書き込みに特化したものではないが技術的な詳細を情報共有してくれたペンシルヴェニア大学のウェブサイト (*SCETI: Schoenberg Center for Electronic Text & Image*) であったが、もうひとつが、このグラスゴー大学図書館のウェブサイト (<http://special.lib.gla.ac.uk/exhibns/month/july2001.html>) であった。読者の書き込みのあるフォリオのインターネット上での公開としては2001年のこのサイトがおそらく世界で最初のものではないかと思われる。*MUSC*は、グラスゴー大学のこの先駆的試みから書き込みのあるフォリオのページ画像の公開が持つ教育・研究上の意義を確信したことがきっかけで、スタートしたのである。

このサイトは現在でもアクセス可能であるのだが、*MUSC*とは異なり、公開されている書き込みは全書き込み中ごく一部に留まっている。「読者から読者への伝達装置」としてのグラスゴー・コピーのもつ存在意義を全うさせるには、全ページ画像のデジタル化が望ましい。したがって、将来、グラスゴー大学図書館がボドリアン図書館や明星大学図書館のような方法でデジタル化を実現することが期待される。本論では、それまでの次善の策として書き込みを転写し、共有することとする。

1874年以来グラスゴー大学図書館が収蔵しているグラスゴー・コピーの特徴は、かなり初期の読者によると思われる書き込みが残されていることである。書き込みはフォリオの俳優リスト、*The Names of the Principall Actors in all these Playes* ( $\pi$  B2) と、喜劇の前半に残されている。本コピーは、ファースト・フォリオのいくつかのコピー（異なるページ・サイズを手懸かりに検証することが可能である）から欠損部分を補って1冊のかたち仕立てられたいわゆる「寄せ集め made-up」コピーであるため、もともとどの程度書き込みがされていたかは不明だ。現存する部分で確認されるのは、インクで書かれた主なものでは、*The Tempest*, *The Two Gentlemen of Verona* の全ページと、*The Merry Wives of Windsor* の一葉 (D6) 以外の全ページ、そして、*Much Ado about Nothing* の L1, *As You Like It* の R6 である。俳優リストへの書き込

みからは、この書き込み者が舞台での上演を観た経験を持つ人物であった可能性が、さらには、冒頭の三作品の末尾に書き込まれた、“pretty well” (B4, *Temp.*)、 “stark naught” (D1v, *TGV*) や、“very good, light” (E6v, *Wives*) という寸評からは、この人物が文学作品としての戯曲に対し一定の批評意識を有していた可能性が強く示唆される。

2001年公開の上述のウェブサイトにつづくグラスゴー・コピーについての最近の先行研究をまとめておこう。まず、Anthony James West が *A New Worldwide Census of First Folios* (2003) を構築するなかで、本コピーに West 11 という番号を与え特徴をグラスゴー大学図書館のウェブサイトを引用して説明、紹介した (West 88)。Jonathan Bate は本コピーの俳優リストの William Shakespeare の下の “Leass for making” と読める書き込みについて、“Least for making” (あるいは “Ceast for making”) という読みを提案し、戯曲執筆のためにリストの俳優たちのなかでは実際に演じたのは最少にとどまるという意味ではないかとした。Bate のこの説は同ウェブサイトの 2004 年のアップデートに記録されている。2008 年には、Bate 自身も著書でフォリオの読まれ方のルネサンスの特徴が見られる例として、明星コピー (MR774) と並んで、本コピーにも言及した (Bate 440-41)。Rasmussen & West は *A Descriptive Catalogue* (2012) で、C5v に “Lorenzo Cary” という記名を発見し、そこから最初の所有者で書き込み者を Lorenzo (1613-1641) の父親である Henry Cary, 1st Viscount Falkland (1575-1633) ではないか、と推測した。<sup>1</sup> Henry の妻であり Lorenzo の母でもある Lady Elizabeth Cary (1585-1639) は、英語で戯曲を創作・執筆した最初の女性として名高い。グラスゴー大学図書館、Special Collections の Assistant Librarian である Robert MacLean は、*A Descriptive Catalogue* が示す研究成果をうけて、2012 年 4 月 3 日付けで “Falkland’s First Folio?” と題するブログ記事を寄せ、書き込み者が Elizabeth であることを将来の研究が明らかにすることに期待を表明した (MacLean)。

1 Rasmussen and West 以前は、本コピーのプロヴェナンスでさかのぼることのできる最初の所有者は the 5th Earl of Inchiquin (1726-1808) とされていた (Lee, *Census*, no.62, Class IIB, quoted Rasmussen and West, 11)。本稿の *The Tempest* 冒頭の転写記録はこの人物による記名である。



## *The Tempest* の書き込み

転写による共有は上述の山田昭廣氏による明星コピーのそれがあるほか、筆者も明星大学図書館所蔵の他のフォリオについて経験してきた (Sumimoto 2005 ほか) が、下線というマーキングを転写し記録した先行例はない。グラスゴー・コピーの書き込みは、Rasmussen & West がすでに手がけてはいる。しかしながら、下線については、フォリオの行を数字で示すのみという極めて簡単なものであり、読者が共有するには不便きわまりない状況にあることも否めない事実である。加えて行を示す数字はしばしば正確さに欠ける傾向があることは指摘されているところだ (Sumimoto 2012 ほか)。そこで下線の共有方法は、本論で独自に試行するほかない。試行錯誤の末、ここでは以下の凡例に記したルールにそって転写を記録する。

### 凡例

転写記録の各項は、まず、書き込みの場所 (Signature, column a or b など場所の詳細、TLN (Through Line Numbering))、下線箇所の台詞話者を示し、そのあとで、下線をひかれたテキストを引用符 (ダブル) で囲んで引用する。下線が複数話者の台詞に跨り、かつひとかたまりの пассаージュとして認識されていると判断される場合には、引用に発話者指示 *speech prefix* を含める。韻文、散文を問わず、フォリオの改行箇所を斜線で示す。すこしでも下線が及んでいると判断する単語には下線を施した。下線以外の書き込みには引用符 (シングル) をつけて記録する。‘ap:’ (I approve の意と考えられる) の場合はそれが指していると思われる下線の記録の最後に記録する。その他、単語の読みを修正する書き込みについては、当該単語にアスタリスクをつけ、項の末尾に注記として示した。転写は読者の便宜のため幕場 ([1/1] のように表示) ごとに区切って示すことにする。図 1 はもっとも多くの下線箇所を含む B1v の全体像である。



図1 Sp Coll BD8-b.1, sig. B1v (By permission of University of Glasgow Library, Special Collections)

## The Tempest の書き込みの転写

A1 a. Title box. 'Inchiquin'

[1.1]

A1 a. 37-39 (1.1). Gonzalo. "his complexion / is perfect Gallowes: stand fast good Fate to his han-/ ging, make the rope of his destiny our cable".

A1 b. 54-56. Gonzalo. "though the/ Ship were no stronger then a Nutt-shell, and as leaky as/ an vnstatched wench".

A1 b. 68-70. Gonzalo. "Hee'l be hang'd yet,/ Though euery drop of water

swear against it/ And gape at wilst to glut him.” .

[1.2]

A1v a. 135-36. Miranda. “And rather like a dreame, then an assurance/ That my remembrance warrants:” .

A1v b. 204. Miranda. “Your tale, Sir, would cure deafenesse.” .

A1v b. 205-210. Prospero. “To haue no Schreene between this part he plaid/ And him he plaid it for, he needes will be/ Absolute Millaine, Me (poore man) my Librarie/ Was Dukedome large enough: of temporall roalties/ He thinks me now incapable. Confederates/ (so drie he was for Sway)” . ‘ap:’

A2 a. 235-37. Miranda. “I not remembring how I cride out then/ Will cry it ore againe: it is a hint/ That wrings mine eyes too’t.” .

A2 a. 252-53. Prospero. “Nor tackle, sayle, nor mast, the very rats/ Instinctiueley haue\* quit it:” . \* “haue” emmended to read ‘had’ .

A2 b. 322-24. Ariel. “Not a soule/ But felt a Feauer of the madde, and plaid/ Some tricks of desperation:” .

A2 b. 334-36. Ariel. “Not a haire perishd: / On their sustaining garments not a blemish,/ But fresher then before: and as thou badst me,” . ‘ap: me[reading doubtful]’ .

A2 b. 339-41. Ariel. “Whom I left cooling of the Ayre with sighes,/ In an odde Angle of the Isle, and sitting/ His armes in this sad knot.” . ‘ap:’ .

A2v a. 383-85. Prospero. “Thou liest, malignant Thing: hast thou forgot/ The fowle Witch Sycorax, who with Age and Enuy/ Was growne into a hoope? hast thou forgot her?” . ‘ap:’ .

A2v a. 413. Prospero. “Dull thing, I say so: he, that Caliban” . ‘ap:’ .

A2v b. 426-28. Ariel. “Pardon, Master,/ I will be correspondent to command/ And doe my spyting, gently” . ‘ap:’ .

A2v b. 480-81. Caliban. “For I am all the Subjects that you haue,/ Which first was min owne King: and here you sty-me” . ‘ap:’ .

A3 a. 490-91. Caliban. “Thou didst preuent me, I had peopel’d else/ This Isle with Calibans” . ‘ap:’ .

A3 a. 530-38. Ferdinand. “Where shold this Musick be? I’t h aire, or th’earth?/

It sounds no more: and sure it waytes vpon/  
Some God'oth'Iland, sitting on a  
banke,/ Weeping againe the King my Fathers wracke./ This Musicke crept by  
me vpon the waters,/ Allaying both their fury, and my passion/ With it's sweet  
ayre: thence I haue follow'd it/ (Or it hath drawne me rather) but 'tis gone." .  
'ap:' .

A3 a-b. 548-51. Ferdinand. "The Ditty do's remember my drown'd father/ This  
is no mortall busines, nor no sound/ That the earth owes:" . 'ap:' .

A3 b. 590-92. Prospero. "The Duke of Millaine/ And his more brauer daughter,  
could controll thee/ If now'twere fit to do't:" . 'ap:' .

A3 b. 612-14. Miranda. "Ther's nothing ill, can dwell in such a Temple./ If the  
ill-spirit haue so fayre a house,/ Good things will striue to dwell with't." . 'ap  
[stained by an ink blot or deleted?]' .

A3v a. 643-44. Prospero. "To th'most of men, this is a Caliban./ And they to  
him are Angels." . 'ap:' .

A3v a. 645-47. Miranada. "My affections/ Are then most humble: I haue no  
ambition/ To see a goodlier man." . [ 'ap:' in the previous item is apparently  
meant to refer also to these lines.]

A3v a. 656-59. Ferdinand. "Might I but through my prison once a day/ Behold  
this Mayd: all corners else o'th' Earth/ Let liberty make vse of: space enough/  
Haue I in such a prison." . 'ap:' .

[2.1]

A3v b. 687-88. Sebastian. "Looke, hee's winding vp the watch of his wit./ By  
and by it will strike." . 'ap:' .

A3v b. 690. Sebastian. "One: Tell." .

A3v b. 722-25. Sebastian/ Antonio/ Gonzalo/ Antonio. "Seb. As if it had Lungs,  
and rotten ones./ Ant. Or, as ,twere perfum'd by a Fen./ Gon. Heere is euery  
thing aduantageous to life. / Ant. True, saue meanes to liue." .

A3v b. 740-41. Antonio. "If but one of his pockets could speake, would/ it not  
say he lyes?" .

A4 a. 750-55. Gonzago/ Antonio/ Sebastian/ Adrian. "Gon. Not since widdow  
Dido's time./ Ant. Widow? A pox o'that: how came that Wid-/ dow in?"

- Widdow Dido! / *Seb.* What if he had said Widdower Æneas too?! / Good Lord, how you take it? / *Adri.* Widdow Dido said you?".
- A4 a. 771-78. Sebastian/ Antonio/ Gonzalo. "*Seb.* Bate (I beseech you) widdow Dido. / *Ant.* O Widdow Dido? I, Widdow Dido. / *Gon.* Is not Sir my doublet as fresh as the first day I/ wore it? I meane in a sort. / *Ant.* That sort was well fish'd for. / *Alon.* You cram these words into mine eares, against/ the stomacke of my sense: ". 'ap[Probably meant to refer to all these lines]' .
- A4 a. 796-99. Sebastian. "Sir you may thank your selfe for this great losse. / That would not blesse our Europe with your daughter. / But rather loose her to an Affrican. / Where she at least, is banish'd from your eye.". 'ap' .
- A4 b. 812-15. Gonzalo/ Sebastian/ Antonio. "*Gon.* The truth you speake doth lacke some gentlenesse. / And time to speake it in: you rub the sore. / When you should bring the plaister. / *Seb.* Very well. / *Ant.* And most Chirurgonly.".
- A4 b. 820-21. Antonio/ Sebastian. "*Ant.* Hee'd sow't vvith Nettle-seed. / *Seb.* Or dockes, or Mallowes.". 'ap [Probably meant also to refer to the underlined lines above]' .
- A4 b. 833. Gonzalo. "No Soueraignty.".
- A4 b. 835-36. Antonio. "The latter end of his Common-wealth forgets/ the beginning.".
- A4 b. 845-46. Gonzalo. "I vvould vvith such perfection gouerne Sir:/ T'Excell the Golden Age.". 'ap' .
- A4 b. 857-58. Antonio/ Sebastian. "*Ant.* What a blow vvas there giuen? / *Seb.* And it had not falne flat-long.". 'ap' .
- A4v a. 891-98. Sebastian/ Antonio. "*Seb.* What? art thou waking? / *Ant.* Do you not heare me speake? / *Seb.* I do, and surely / It is a sleepy Language; and thou speak'st/ Out of thy sleepe: What is it thou didst say? / This is a strange repose, to be asleepe/ With eyes wide open: standing, speaking, mouing:/ And yet so fast asleepe.". 'ap' .
- A4v a. 902-03. Sebastian. "Thou do'st snore distinctly/ There's meaning in thy snores.".

A4v a. 922-24. Antonio. “Although this Lord of weake remembrance; this/ Who shall be of as little memory/ When he is earth’d, hath here almost perswaded”. ‘ap:’.

A4v a-b. 940-47. Antonio. “She that is Queene of Tunis: she that dwels/ Ten leagues beyond mans life: she that from Naples/ Can haue no note, vnlesse the Sun were post:/ The Man i’th Moone’s too slow, till new-borne chinnes/ Be rough, and Razor-able: She that from whom/ We all were sea-swallow’d, though some cast againe,/ (And by that destiny) to performe an act/ Whereof, what’s past is Prologue;”.

A4v b. 958-61. Antonio. “There be that can rule Naples/ As well as he that sleepes: Lords, that can prate/ As amply, and vnnecessarily/ As this Gonzallo;”. ‘ap:’.

A4v b. 974-77. Sebastian/ Antonio. “Seb. But for your conscience. / Ant. I Sir: where lies that? If ’twere a kybe/ ’Twould put me to my slipper: But I feele not/ This Deity in my bosome;”.

A4v b. 992-94. Sebastian. “Draw thy sword, one stroke/ Shall free thee from the tribute which thou paiest,/ And I the King shall loue thee.”. ‘ap:’.

A4v b-A5 a. 1004-09. Ariel singing. “While you here do snoaring lie,/ Open-ey’d Conspiracie/ His time doth take:/ If of Life you keepe a care,/ Shake off slumber and beware./ Awake, awake.”.

[2.2]

A5 a. 1040-42. Caliban. “All the infections that the Sunne suckes vp/ From Bogs, Fens, Flats, on Prosper fall, and make him/ By ynch-meale a disease;”. ‘ap:’.

A5 b. 1066-72. Trinculo. “were I in England/ now (as once I was) and had but this fish painted; not/ a holiday-foole there but would giue a peece of siluer:/ there, would this Monster, make a man: any strange/ beast there, makes a man: when they will not giue a/ doit to relieue a lame Begger, they will lay out ten to see/ a dead Indian”.

A5 b. 1091-695. Stephano singing. “She lou’d not the sauour of Tar nor of Pitch,/ Yet a Tailor might scratch her where ere she did itch./ Then to

Sea Boyes, and let her goe hang./ This is a scury tune too:/ But here's my comfort."

A5 b. 1099-1100. Stephano. "Doe you put trickes vpon's with Saluages, and Men of/ Inde? ha? I haue not scap'd drowning, to be afeard". 'ap:' .

A5 b. 1115-16. Stephano. "He's in his fit now; and doe's not talke after the/ wisest; hee shall taste of my Bottle:". 'ap:' .

A5v a. 1182-83. Stephano. "Out o'th Moone I doe assure thee. I was the/ Man ith' Moone, when time was". 'ap:'

A5v a. 1188-91. Trinculo. "By this good light, this is a very shallow Mon-/ ster: I afeard of him? a very weake Monster:/ The Man ith' Moone? / A most poore creadulous Monster.". 'ap:' .

A5v a. 1195-96. Trinculo. "By this light, a most perfidious, and drunken/ Monster, when's god's a sleepe he' ll rob his Bottle.".

A5v b. 1199. Trinculo. "I shall laugh my selfe to death at this puppi-hea-/ ded Monster: a most scuruie Monster:".

A5v b. 1204. Trinculo. "An abominable Monster.".

[3.1]

A5v b. 1241-42. Ferdinand. "The Mistris which I serue, quickens what's dead,/ And makes my labours, pleasures:". 'ap:' .

A6 a. 1275-76. Ferdinand. "No, noble Mistris, 'tis fresh morning with me/ When you are by at night:". 'ap:' .

A6 a. 1290-92. Ferdinand. "But you, O you,/ So perfect, and so peetlesse, are created/ Of euerie Creatures best.". 'ap:' .

A6 a. 1298-302. Miranda. "but by my modestie/ (The iewell in my dower) I would not wish/ Any Companion in the world but you:/ Nor can imagination forme a shape/ Besides your selfe, to like of:". 'ap:' .

A6 b. 1333-36. Miranda. "I am your wife, if you will marrie me;/ If not, Ile die your maid: to be your fellow/ You may denie me, but Ile be your seruant / VWhether you will or no.". 'ap:' .

A6 b. 1342. Miranda. "And mine, with my heart in't:".

[3.2]

- A6 b. 1368. Stephano. "VVeel not run Monsieur Monster.". 'ap:'.
- A6 b. 1371-72. Stephano. "Moone-calfe, speak once in thy life, if thou beest/ a good Moone-calfe.".
- A6 b. 1376. Trinculo. "why, thou debosh'd Fish thou.". 'ap:'.
- A6v a. 1407. Caliban. "But this Thing dare not.". 'ap:'.
- A6v a. 1438-39. Caliban. "Beate him enough: after a little time/ Ile beate him too".
- A6v a-b. 1449. Caliban. "First to possesse his Bookes; for without them/ Hee's but a Sot, as I am; nor hath not/ One Spirit to command: they all do hate him/ As rootedly as I. Burne but his Bookes,".
- A6v b. 1462. Stephano. "I will be King and Queene, saue our Graces:".
- A6v b. 1483-84. Trinculo. "This is the tune of our Catch, plaid by the pic-/ ture of No-body.".
- A6v b. 1492-93. Caliban. "Be not affeard, the Isle is full of noyses,/ Sounds, and sweet aires, that giue delight and hurt not:". 'ap:[probably meant also to refer to the next item]'.
- A6v b. 1498. Caliban, continued. "The clouds methought would open, and shew riches/ Ready to drop vpon me, that when I wak'd/ I cri'de to dreame againe.". [3.3]
- B1 a. 1516-19. Gonzalo. "By'r lakin, I can goe no further, Sir,/ My old bones akes: here's a maze trod indeede/ Through fourth-rights, & Meanders: by your patience,/ I needes must rest me.". 'ap:'.
- B1 a. 1543-46. Sebastian. "A liuing Drolierie: now I will beleeeue/ That there are Vnicornes: that in Arabia/ There is one Tree, the Phœnix throne, one Phœnix/ At this houre reigning there.".
- B1 a. 1548-50. Antonio. "And what do's else want credit, come to me/ And Ile besworne 'tis true: Trauellers nere did lye,/ Though fooles at home condemne 'em.". 'ap:'.
- B1 a-b. 1572-78. Gonzalo. "Faith Sir, you neede not feare: when wee were (Boyes/ Who would beleeeue that there were Mountayneeres,/ Dew-lapt, like Buls, whose throats had hanging at'em/ Wallets of flesh? or that there were



- such men / Whose heads stood in their breasts? which now we finde/ Each putter out of fieu for one, will bring vs/ Good warrant of.”
- B1 b. 1598-99. Ariel. “Wound the loud windes, or with bemockt-at-Stabs / Kill the still closing waters,” .
- B1 b. 1630-37. Gonzalo/ Alonso. “Gon. I’th name of something holy, Sir, why stand you / In this strange stare? Al. O, it is monstrous: monstrous: / Me thought the billowes spoke, and told me of it, / The windes did sing it to me: and the Thunder/ (That deepe and dreadfull Organ-Pipe) pronounc’d / The name of Prosper:” . ‘ap:’ .
- B1v a. 1644-45. Gonzalo. “(Like poyson giuen to worke a great time after) / Now gins to bite the spirits:” .
- [4.1]
- B1v a. 1656-62. Prospero. “All thy vexations / Were but my trials of thy loue, and thou / Hast strangely stood the test: here, afore heauen/ I ratifie this my rich guift: O Ferdinand, / Doe not smile at me, that I boast her of,/ For thou shalt finde she will out-strip all praise/ And make it halt, behinde her.” . ‘ap:me:’ .
- B1v a. 1681-84. Ferdinand. “to take away / The edge of that dayes celebration,/ When I shall thinke, or Phæbus Steeds are founderd, / Or Night kept chain’d below.” . ‘ap:’ .
- B1v a. 1688. Ariel. “What would my potent master? here I am.” . ‘ap:’ .
- B1v b. 1721-22. Iris. “And flat Medes thetchd with Stouer, them to keepe:/ Thy bankes with pioned, and twilled brims” . ‘n: bn:[reading doubtful]’ .
- B1v b. 1723-26. Iris. “Which spungie Aprill, at thy hest betrimis; / To make cold Nymphes chast crownes; & thy broome-(groues;/ Whose shadow the dismissed Batchelor loues, / Being lasse-lorne:” . ‘ap:’ .
- B1v b. 1728-32. Iris. “the Queene o’th Skie,/ Whose watry Arch, and messenger, am I. / Bids thee leaue these, & with her soueraigne grace, / Here on this grasse-plot, in this very place / To come, and sport:” . ‘ap:’ .
- B1v b. 1740-41. Ceres. “Rich scarph to my proud earth: why hath thy Queene/ Summond me hither, to this short gras’d Greene?” . ‘ap:’ .

B1v b. 1758-63. Iris/ Ceres. "Ir: Marses hot Minion is returnd againe,/ Her waspish headed sonne, has broke his arrowes,/ Swears he will shoote no more, but play with Sparrows,/ And be a Boy right out./ Cer. Highest Queene of State,/ Great Iuno comes, I know her by her gate.". 'ap:' .

B1v b-B2a. 1767-79. Iuno [Ceres]. "Iu. Honor; riches, marriage, blessing, / Long continuance, and encreasing,/ Hourely ioyes, be still vpon you,/ Iuno sings her blessings on you. / Earths increase, foyzon plentie,/ Barnes, and Garners, neuer empty./ Vines, with clustring bunches growing,/ Plants, wth goodly burthen bowing:/ Spring come to you at the farthest,/ In the very end of Haruest./ Scarcity and want shall shun you,/ Ceres blessing so is on you.". 'ap: [apparently meant to refer to these lines which are bracketed]' .

B2 a. 1785-87. Ferdinand. "Let me liue here euer,/ So rare a wondred Father, and a wife/ Makes this place Paradise.". 'ap:' .

B2 a. 1789-91. Prospero. "Iuno and Ceres whisper seriously,/ There's something else to doe: hush, and be mute/ Or else our spell is mar'd.". 'ap: m:[reading doubtful]' .

B2 a. 1812. Prospero. "Is almost come: Well done, auoid: no more.".

B2 a. 1819-29. Prospero. "Our Reuels now are ended: These our actors,/ (As I foretold you) were all Spirits, and/ Are melted into Ayre, into thin Ayre,/ And like the baselesse fabricke of this vision/ The Clowd-capt Towres, the gorgeous Pallaces,/ The solemne Temples, the great Globe it selfe,/ Yea, all which it inherit, shall dissolue,/ And like this insubstantiall Pageant faded/ Leaue not a racke behinde: we are such stuffe/ As dreames are made on; and our little life/ Is rounded with a sleepe.". 'ap:' .

B2 b. 1845-51. Ariel. "So full of valour, that they smote the ayre/ For breathing in their faces: beate the ground/ For kissing of their feete; yet alwaies bending/ Towards their proiect: then I beate my Tabor,/ At which like vnback't colts they prickt their eares,/ Aduanc'd their eye-lids, lifted vp their noses/ As they smelt musicke, so I charm'd their eares.". 'ap:po[reading doubtful]:' .

B2 b. 1876-78. Stephano/ Trinculo. "Ste. So is mine. Do you heare Monster: If I should Take a displeasure against you: Looke you./ Trin. Thou wert but a lost

- Monster.”. ‘ap:me[cropped and reading doubtful]’.
- B2 b. 1892-94. Caliban. “Do that good mischeefe, which may make this Island/ Thine owne for euer, and I thy Caliban/ For aye thy foot-licker.”. ‘ap:go:[ap:po?]’.
- B2v a. 1916-18. Stephano. “Wit shall not goe vn-rewarded while I am King of this/ Country: Steale by line and leuell, is an excellent passé/ of pate:”. ‘ap:’.
- B2v a. 1935-38. Prospero. “Goe, charge my Goblins that they grinde their ioynts/ With dry Convultions, shorten vp their sinews/ With aged Cramps, & more pinch-spotted make them,/ Then Pard, or Cat o’Mountaine.”. ‘ap:’.
- [5.1]
- B2v a. 1957-58. Ariel. “all prisoners Sir/ In the Line-groue which weather-fends your Cell.”. ‘ap:’.
- B2v b. 1964-65. Ariel. “His teares runs downe his beard like winters drops/ From eaues of reeds:”. ‘ap:’.
- B2v b. 1978-80. Prospero. “they, being penitent,/ The sole drift of my purpose doth extend/ Not a frowne further:”. ‘ap:’.
- B2v b. 2001-08. Prospero. “But this rough Magicke/ I heere abiure: and when I haue requir’d/ Some heauenly Musicke (which euen now I do)/ To worke mine end vpon their Sences, that/ This Ayrie-charme is for, I’le breake my staffe,/ Bury it certaine fadomes in the earth,/ And deeper then did euer Plummet sound/ Ile drowne my booke.”. ‘ap:me[?]’.
- B2v b. 2016-17. Prospero. “there stand/ For you are Spell-stopt.”. ‘ap:’.
- B3 a. 2059-60. Ariel. “I drinke the aire before me, and returne/ Or ere your pulse twice beate.”. ‘ap:’.
- B3 a. 2070-74. Alonso. “Where thou bee’st he or no,/ Or some enchanted trifle to abuse me,/ (As late I haue beene) I not know: thy Pulse/ Beats as of flesh, and blood: and since I saw thee,/ Th’affliction of my minde amends.”. ‘ap[sic]’.
- B3 b. 2106-07. Alonso. “Irreparable is the losse, and patience/ Saies, it is past her cure.”. ‘ap:’.
- B3 b. 2131-36. Prospero. “No more yet of this,/ For ,tis a Chronicle of day by

day./ Not a relation for a break-fast, nor/ Befitting this first meeting: Welcome,  
 Sir./ This Cell's my Court: heere haue I few attendants./ And Subjects none  
abroad:”. ‘ap:’.

B3 b. 2148-50. Alonso. “If this proue/ A vision of the Island, one deere Sonne/  
Shall I twice loose.”. ‘ap:’.

B3 b-B3v a. 2157-30. Miranda. “O wonder!/ How many goodly creatures are  
there heere? / How beauteous mankinde is? O braue new world/ That has such  
people in't.”. ‘ap:’ (図 2 参照)

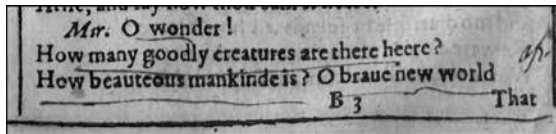


図 2 Sp Coll BD8-b.1, sig. B3 (By permission of University of Glasgow Library, Special Collections)

B3v a. 2184-95. Gonzalo/ Alonso. “*Gon.* For it is you, that haue chalk'd  
forth the way/ Which brought vs hither./ *Alo.* I say Amen, *Gonzallo./* *Gon.*  
Was Millaine thrust from Millaine, that his Issue/ Should become Kings of  
Naples? O reioyce/ Beyond a common ioy, and set it downe/ With gold on  
lasting Pillers: In one voyage/ Did Claribell her husband finde at Tunis./ And  
Ferdinand her brother, found a wife./ Where he himselve was lost: Prospero,  
his Dukedome/ In a poore Isle: and all of vs, our selues./ When no man was  
his owne.”. ‘ap:’

B3v a. 2204-06. Gonzalo. “Now blasphemy,/ That swear'st Grace ore-board, not  
an oath on shore./ Hast thou no mouth by land?”. ‘ap:’.

B3v a. 2216-19. Alonso/ Boatswain. “*Alo.* These are not naturall euent, they  
strengthen/ From strange, to stranger: say, how came you hither?/ *Bot.* If I did  
thinke, Sir, I were well awake,/ I'd striue to tell you.”. ‘ap:’.

B3v b. 2232-34. Alonso. “This is as strange a Maze, as ere men trod./ And there  
is in this businesse, more then nature/ Was euer conduct of.”. ‘ap:’.

B3v b. 2238-39. Prospero. “The strangenesse of this businesse, at pickt leisure/

(Which shall be shortly single) I'le resolue you.”. ‘ap:’.

B3v b. 2244. Prospero. “Vntyte the Spell: How fares my gracious Sir?”. ‘ap:’.

B3v b. 2252-53. Trinculo. “If these be true spies which I weare in my head/ here's a goodly sight.”. ‘ap:’.

B3v b. 2264-66. Prospero. “His Mother was a Witch, and one so strong/ That could controle the Moone; make flowes, and ebs,/ And deale in her command, without her power:”.

B3v b. 2283-85. Stephano/ Prospero. “Ste. O touch me not, I am not Stephano, but a Cramp./ Pro. You'ld be King o'the Isle, Sirha?/ Ste. I should haue bin a sore one then.”. ‘ap:’.

B4 upper a. 2292-94. Caliban. “what a thrice double Asse/ Was I to take this drunkard for a god?/ And worship this dull foole?”. ‘ap:’.

B4 upper b. 2306-09. Prospero. “Where I haue hope to see the nuptial/ Of these our deere-belou'd, solemnized,/ And thence retire me to my Millaine, where/ Every third thought shall be my graue.”. ‘ap:’.

B4 upper b. ‘prety well’. (図3 参照)

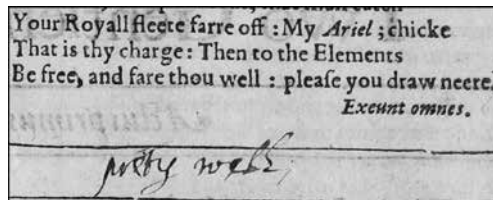


図3 Sp Coll BD8-b.1, sig. B4 (By permission of University of Glasgow Library, Special Collections)

[Epilogue]

B4 lower a. 2326-29. Epilogue spoken by Prospero. “Or sent to Naples, Let me not/ Since I haue my Dukedome got,/ And pardon'd the deceiuer, dwell/ In this bare Island, by your Spell,”. ‘ap:’.

## おわりに

以上がグラスゴー・コピーの *The Tempest* に残された書き込みのすべてである。現代の読者がこの作品を読みながらこれらの書き込みを参照した場合、どのように、また、どのような、より豊かでより深い作品受容に至ることができるだろうか。読みは個人で、また同一人であっても、個々の読書環境で異なるわけだから、無論、いちがいいには語れまい。だが、一例を挙げるなら、“His teares runs downe his beard like winters drops/ From eaves of reeds:”では、茅葺き屋根が日常にあったこの読者もまた、この台詞の美しさにうたれたのか、といった感慨をもつかもされない。プロスペロー、ミランダ、キャリバンといった中心人物の台詞だけでなく、セバステイアンやトリンキュローら脇役の台詞にも引かれた下線に、ここも注目してみるとおもしろいのかもしれない、と違った読みに気づかされることもあるだろう。それぞれの読者にいろいろな刺激をこの転写が提供できると嬉しく思う次第である。読者論、読書史論としては、まずは、同時代読者の書き込みとして明星コピーの書き込みとこのグラスゴー・コピーの書き込みを比較、検討し、研究を進めていく必要と可能性があると考ええる。今後の課題としたい。

本稿は、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））課題番号 23520333 に基づく研究成果の一部である。

## 引用文献

- Bate, Jonathan. *Soul of the Age: The Life, Mind and World of William Shakespeare*. London: Penguin Books, 2009.
- Beal, Peter. *A Dictionary of English Manuscript Terminology 1450-2000*. Oxford: Oxford UP, 2008. Print.
- Hackel, Heidi Brayman. *Reading Material in Early Modern England: Print, Gender, and Literacy*. Cambridge: Cambridge UP, 2005.
- Jackson, H.J. *Marginalia: Readers writing in Books*. New Haven: Yale UP, 2001.
- Kinney, Arthur F., ed. *The Oxford Handbook of Shakespeare*. Oxford: Oxford UP, 2012.
- Lee, Sidney. *Shakespeare's Comedies, Histories, & Tragedies: A Census of Extant Copies*. Oxford, 1902.
- MacLean, Robert. “Falkland’s First Folio?”. University of Glasgow Library.

- <<http://universityofglasgowlibrary.wordpress.com/2012/04/03/falklands-first-folio/>>. 30 Oct. 2014.
- Massai, Sonia. "Early Readers." Chapter 8 of Kinney 143-64.
- Rasmussen, Eric. *The Shakespeare Thefts: In Search of the First Folio*. New York: Palgrave Macmillan, 2011. 安達まみ訳『シェイクスピアを追え!』、岩波書店、2014.
- Rasmussen, Eric and Anthony James West, eds. *The Shakespeare First Folios: A Descriptive Catalogue*. Basingstoke: Palgrave Macmillan, 2012.
- Sherman, William H. *Used Books: Marking Readers in Renaissance England*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press, 2008.
- Smith, Emma. "How many First Folios do we need?". *SPRINT for Shakespeare*, <<http://shakespeare.bodleian.ox.ac.uk/2013/09/06/how-many-first-folios-do-we-need/>> 30 Oct. 2014.
- SPRINT*. home <<http://shakespeare.bodleian.ox.ac.uk/>> 30 Oct. 2014.
- Sumimoto, Noriko. "A Transcript of the Marginal Annotations in a copy of the Third Folio of Shakespeare: The Comedies." *Meisei Review*, vol. 20 (2005), 11-26.
- \_\_\_\_\_. "A Transcript of the marginal Annotations in a Copy of the Third Folio of Shakespeare: The Histories and Tragedies". 『明星大学研究紀要——人文学部』42号 (2006)、1-18.
- \_\_\_\_\_. Book Review: Eric Rasmussen and Anthony James West, eds., *The Shakespeare First Folios: A Descriptive Catalogue* (Basingstoke, 2012). *Cahiers Elisabethanins: A Biannual Journal of English Renaissance Studies* 82 (2012), 88-90.
- \_\_\_\_\_. "Updating Folios: Readers' Reconfigurations and Customisations of Shakespeare". Jean-Christophe Mayer, William H. Sherman, Stuart Sillars and Margaret Vasileiou, eds. *Shakespeare Configurations. Early Modern Literary Studies Special Issue* 21 (2013) <[http://extra.shu.ac.uk/emls/si-21/07-Sumimoto\\_Updating%20Folios.htm](http://extra.shu.ac.uk/emls/si-21/07-Sumimoto_Updating%20Folios.htm)> 30 Oct. 2014.
- Yamada, Akihiro, ed. *The First Folio of Shakespeare: A Transcript of Contemporary Marginalia in a Copy of the Kodama Memorial Library of Meisei University*. Tokyo: Yushodo Press, 1998.
- Werstine, Paul. "The Type of the Shakespeare First Folio." Williams, Owen with Caryn Lazzuri, eds. *Foliomania!: Stories behind Shakespeare's most important book*. Washington, D.C.: The Folger Shakespeare Library, 2011, 15-20.
- West, Anthony James. *The Shakespeare First Folio: The History of the Book, II: A New Worldwide Census of First Folios*. Oxford: Oxford UP, 2003.
- "July 2001 Shakespeare: First Folio Sp Coll BD8-b.1". Book of the Month Archive. University of Glasgow Special Collections. <<http://special.lib.gla.ac.uk/exhibns/month/july2001.html>> 30 Oct. 2014.